

私は戦争体験者なので、長崎に落ちた原爆のことについて話します。当時、私は9歳で、生まれは長崎市江の浦町でしたが父の仕事上、住吉町に住み西浦上国民学校に通っていました。戦時中だったので、何かあるとすぐ防空頭巾をかぶり、道に伏せたりして過ごしていました。

ある日、学校から疎開の通達があり、母の実家の琴海町(西海)に疎開しました。その時、父は軍隊に召集されていました。

8月9日、長崎に原爆が投下され、疎開した琴海から長崎方面に煙がぼうぼうと見えました。また、同じ琴海に住んでいた叔父の息子が寝ていた時に、長崎からの爆風で家のドアや障子もはずれ囲炉裏の粉が吹き飛んだと言っていました。

その後、長崎に仕事に行っていた人々が原爆で怪我して次々と帰ってきていました。当時、琴海町には病院は1件しかなく対応が大変だったと思います。

原爆で長崎は死体がゴロゴロして草木も生えないと言われていました。私の長崎の家は燃え尽きましたが、疎開していたので命は助かりました。その後、終戦となり父は無事に帰ってきました。(原爆にはあっていません)

黒い雨について、いつ降ったのか記憶はありませんが覚えていることを話します。黒い雨が降った日、私は家の中にいましたが、母親は雨が降ってきたので、隣の家から近道をして畑の中を歩いて家に戻ってきました。その時、雨に濡れた肩やタオルが黒く点々と染まっていたので、それを手で拭いた記憶があります。

叔父の2人は戦死しました(海軍と陸軍)遺骨は帰ってきましたが、中身はなく空箱でした。私は子どもだったので木箱を開けてみたら骨などなく、どこで戦死したのか書いているメモ紙が入っていたように思います。木箱を開けたことで祖母からひどく怒られたことは一生忘れません。

叔母たちも琴海(西海)に引っ越していたので、親戚はほとんど原爆にあいませんでした。亡くなったのは戦死した叔父2人だけでした。今は、ロシア軍によるウクライナ侵攻があつても悲しいです。戦争だけは絶対にはいけません。